

令和6年度 栃木県立大田原高等学校 学校評価シート



校訓 質素堅実

教育目標

- (1) 真剣に学習に取り組み、豊かな創造力と正しい判断力を養う。
- (2) 心身を鍛錬し、不屈の精神と逞しい実践力を養う。
- (3) 自他を敬愛し、感謝の心と奉仕の態度を養う。
- (4) 規律と責任を重んじ、協同・連帯の精神を養う。

学校自己評価

学校自己評価の評価実施計画			達成状況と改善策		
本年度の重点目標	具体的方策	方策の評価指標	方策の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
「質素堅実」の具現化	あらゆる機会(SHR・授業・学校行事等)を通して基本的な生活習慣を確立させると共に、規範意識や安全意識を高め、自ら考え責任を持って行動できる判断力・行動力を身に付けさせる。	・組織的な指導の効果により、規範意識や安全意識が高まり、問題行動や交通事故等の発生件数が少なかった。…A ・指導の結果、規範意識や安全意識が高まり、学校生活全般に落ち着きが見られた。…B ・学校生活の乱れが散見された。…C	問題行動4件、いじめ0件、交通事故が16件であった。	B	B
	5年ぶりの完全実施を目指す85キロ強歩等の各種学校行事について、引き続き安全対策を講じつつ、高校生活の良い思い出となるよう計画し実施する。	・85キロ強歩・寒稽古実施後の生徒アンケートで行事の満足度が高い生徒の割合 ・80%以上…A ・60%以上…B ・60%未満…C	5年ぶりの85キロでの完全実施となった。夜間は雨天となり、厳しい環境にもかかわらず、77%の生徒が満足したと回答した。	B	
「大高教育力」の充実	学習全般を通して生徒自身が深く考えたり、広く考えたりすることの有用性を実感できる授業展開を心がけ、応用力の伴った生徒の学力向上を目指す。	・生徒の授業アンケートで「深く考えたり、広く考えたりできた」と回答した生徒の割合 ・80%以上…A ・60%以上…B ・60%未満…C	肯定的に回答したのは85%で、各授業で行われている指導の工夫が深い学びにつながっているとと思われる。	A	A
	面談指導を充実させることで、進路目標を明確にさせたり、また、日常生活上の悩みや不安を解消させたりする等、生徒一人一人に適した指導を全教職員で組織的に展開する。	・生徒アンケートで面談の満足度が高い生徒の割合 ・90%以上…A ・70%以上…B ・70%未満…C	面談に関するアンケート結果(抜粋) ①とてもためになった75.6% 少しためになった23.8%②満足度 大変満足71.6% 少し満足27.4%	A	
SSH活動の深化	Ⅱ期目SSH「グローバルな視点と総合知の活用により創造性を育む文理融合型課題研究の開発」のための全校体制を強化し、各事業の1年次計画の円滑な実施をはかる。	・全校体制のもと各事業が円滑にスタートできた…A ・2年次以降への課題は残ったがほぼ計画通りに実施できた…B ・計画通りに実施できない事業が多くあり課題が残った…C	事業項目で計画したものは実施できた。新規事業の実施方法や時期の設定等、様々な課題が出てきており改善の余地がある。	B	B
	地域資源を有効活用、また大学や研究機関等との連携を進め、探究活動の深化をはかる。	・連携が拡充され探究活動の深化が見られた…A ・探究活動の深化には至らなかったが、地域や大学等との連携は図れた…B ・地域や大学等と連携が不十分で課題が残った。…C	国際医療福祉大学や宇都宮大学との連携は継続・拡充されつつあり、他の機関や地域との連携も課題研究を通じて増えつつある。	B	

学校関係者評価

実施日令和7年2月21日

評価と意見

・交通事故の件数の多さが気になる。事例を生徒に公開し、安全教育に活かしてはどうか。
・自転車の運転手が加害者になることもある。左側通行の生徒が多いことが残念である。

・行事については、以前より安全対策で大変だと思うが、無理のない範囲で今後も実施してほしい。
・強歩の見直しについては、保護者等の意見も取り入れてほしい。

・教師からの問いかけが主体的な学習意欲につながっていて素晴らしいと感じる。
・進路実現のための学習と共に、将来のために広く社会に目を向けるような機会作りや御指導を今後お願いしたい。

・面談を随時行うのは先生にとって大きな負担もかかることで情報共有が難しいのはわかるが、工夫を取り入れ実施してほしい。
・多くの教員と接することは重要な経験の1つになる。

・SSH事業は負荷がかかるので無理のない範囲で進めて行けばよい。
・テーマ選定理由に工夫が必要である。
・目標の遂行は大切である。

・データの蓄積が課題である。
・大学や研究機関等にとっても高校生との研究活動は望まれている。年度を超えて同様な研究が深まることを期待する。